

まちの ニュース



第6分団による素早く正確な消防ポンプ自動車操法

日ごろ鍛えた技術を披露・市消防訓練大会

正確で迅速な消火技術と、厳正な規律を競う市消防訓練大会は6月15日、松尾総合運動公園で開催されました。

この大会は、昨年まで各地区ごとに開催していましたが、本年度からは統合して開催。規律訓練、消防ポンプ自動車操法、小型動力ポンプ操法の3部門で分団の名譽をかけて競いました。



小型動力ポンプ操法を見せる第14分団

消防団から36隊が出場し、指揮者の号令のもと、高い規律と統制の取れた隊列を見せました。

自動車ポンプ操法の部には、3地区から24台が出場。小型ポンプ操法の部には、14台が出場しました。磨き抜かれた消火技術を発揮し、正確で素早い操法を披露しました。

部門ごとに各地区消防団で優勝した分団は、次のとおりです。

▽規律訓練 第10分団、第18分団、第34分団▽消防ポンプ自動車操法 第6分団、第22分団、第33分団▽小型動力ポンプ操法 第5分団、第14分団、第27分団

まちのにぎわいに花の彩りを添えましょう

荒屋新町商店街活性化推進事業委員会と市商工会は6月12日、安代地区のビニールハウスで、斎藤富子さん（荒屋新町）と佐藤テツさん（吹田）を講師に迎え、ハンギングバスケット講習会を開催しました。

好評です。地域のボランティアなど約45人が参加しました。講師の指導を受けながら、色とりどりの花を使い、街路灯に飾るつり下げ型や壁掛け型の見事なハンギングバスケット150個を作りました。

この講習会は、国道282号沿いの新町商店街活性化事業の一環として毎年行われているもので、本年度8回目。地区外から訪れる買い物客にも

民が協力して水やりなどの世話を実施。秋ごろまで花を咲かせ、地域のにぎわいに文字通り花を添えます。



↑ハンギングバスケット作りに挑戦する参加者

←地域のボランティアが飾り付けのほか、水やりなどの世話をしています



和楽器の音色に触れて豊かな時間を過ごす

青少年劇場「日本のしらべ」は6月6日、安代小学校体育館で開かれました。

市内の児童生徒約370人が参加。プロ演奏家による和楽器の生演奏を堪能しました。曲の合間には、楽器の説明などを聞き、音楽についての知識を楽しく学びました。

会場の児童生徒が加わり、リコーダーなどの楽器で「さくらさくら」を大合奏。みんな楽しんで音楽の時間を過ごしました。



会場みんなで「さくらさくら」を合奏しました

花と一緒に大きく育つ暖かい思いやりの心



ペゴニアなどの苗を植える児童たち

人権の花運動は6月4日の寄木小学校(菅野絹子校長、児童95人)を皮切りに、市内の小中学校で行われました。

この事業は、世界人権宣言60周年の節目の年にちなみ、差別やいじめをなくそうという啓発活動の一環。児童たちは、地域の人権擁護委員などと一緒に花の苗をプランターに植えました。

児童たちは、水やりなど花の世話を通じて、命の大切さや思いやりの心を学びます。

岩手町に工場のある株式会社ケーヒン(東京都、加藤憲太郎社長)の労働組合は6月5日、福祉作業所そよかぜの家にビデオカメラなどを寄付しました。

これは、同組合の社会貢献活動の一環として行われたものです。贈呈式で同組合の四日市俊明岩手ブロック委員長は「思い出を記録して、楽しんでください」とあいさつしました。通所者は運動会が楽しみ」と笑顔を見せていました。

思い出を映像に記録して楽しんでください



四日市委員長(写真右)とそよかぜの家のみなさん

工場立地協定書調印式



調印後に握手する中川社長(左から2人目)ら関係者

株式会社サンソーイング(宇都宮市、中川弘行社長)の工場立地協定調印式は5月30日、市役所で行われました。

同社は、昭和48年から西根地区で縫製工場を操業しており、今回新たに第2工場を立地したものです。新工場は、寝装具製造販売の西川リビング株式会社(大阪府)の受託工場として、7月から稼働。パート従業員など24人を雇用する計画です。

新たな雇用の場を創出・工場立地協定調印

地域の特産ホウレンソウが市場へ向け出発

市を代表する特産品の一つであるホウレンソウの出発式は6月6日、JA新いわて西根真空予冷庫で行われました。出発式で田村正彦市長は「天皇杯を受賞したほどの岩手を代表するホウレンソウの産地として、さらなる振興をしていきたい」とあいさつ。テープカットで東京都の大田市場へ向かうトラックの出発を祝いました。生産者はホウレンソウの栽培振興に向け、意欲を高めていました。



ホウレンソウを満載したトラックの前でテープカット

全国の強豪が集う大会に向けて事務所開き



事務局の看板をかける田村正彦市長と高橋北英教育長

第82回全日本学生スキー選手権大会の市実行委員会事務局の事務所開きは6月6日、安代総合支所で行われました。安比高原スキー場などを会場に開かれる同大会は、来年1月の開催予定。関係者など約2700人の参加が見込まれています。県内での開催は、14年1月に旧安代町で開催されて以来、7年ぶり3度目。22年には全国中学校大会も開催される予定です。

全ての生き物のふるさとなる森林づくり

岩手、秋田両県に豊かな恵みをもたらす米代川を守り育てようと、米代川上中流域植樹祭は6月20日、切通山国有林内で行われました。この植樹祭は、両県の米代川流域漁業協同組合と森林管理署が共同で開催しているもので、本年度6回目です。地域のボランティアや田山小学校の生徒など、約120人が参加。参加者は、植樹場所の刈り払いを行い、ミズナラなど140本を植樹しました。



力を合わせて植樹を行いました

正義のヒーロー・ハチマンタイラーが誕生



田村市長と決意を披露するハチマンタイラー

地域の活性化を使命とするご当地ヒーロー「岩鷲護神ハチマンタイラー」は6月20日、市商工会関係者とともに市役所を訪問。田村正彦市長に「市を元気にしたい」と決意を披露しました。ハチマンタイラーは、市商工会青年部(村木洋志会長の有志5人)によるプロジェクトチームの手で誕生しました。今後は、各種イベントなどに駆け付け、盛り上げの力となります。

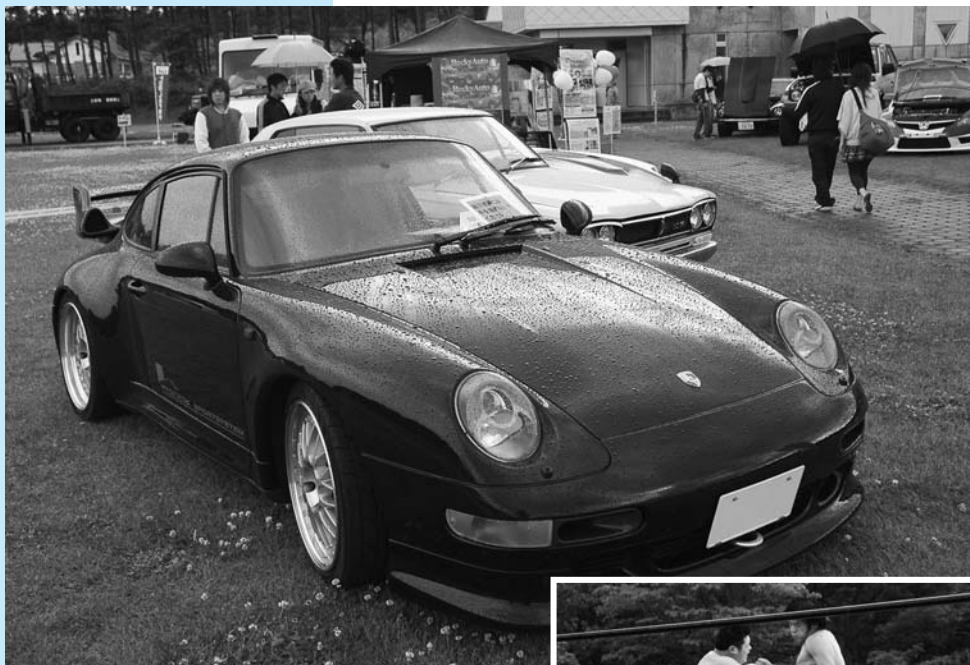
往年の名車を通じて愛好家の交流を深める

往年の名車を楽しむ、第1回ノスタルジックカーミーティングin八幡平は6月14、15の両日、岩手山焼走り国際交流村で開催されました。

会場には、県内外から名車が勢ぞろい。車のパーツやミニカーの販売コーナーのほか、

ヤマブドウなどの特産品などを販売。歌謡ショーやみちのくプロレスなど、多彩なイベントが会場を大いに盛り上げました。

会場を訪れた人は、懐かしい名車を見ながら、交流を深めていました。



↑初日はあいにくの雨模様ながら、大勢の人でにぎわいを見せました

→会場ではみちのくプロレスなど多彩なイベントが開催され、大いに盛り上がりました



特定非営利活動法人（NPO法人）森びとプロジェクト委員会みちのく事務所（盛岡市、角岸幸三所長）は5月31日、旧松尾鉾山跡地で第3回ふるさとの森づくりを開催しました。

当日はあいにくの雨模様ながら、県内外から約250人が参加し、緑の森を再生する植樹活動を行いました。

開会式で角岸所長は「たくさんの人の思いが込められた、大切な苗木です。学びながら一步一步前進し、森づくりをしましょう」とあいさつしました。

苗木は、ミズナラ、トチ、シ



植樹の方法について指導を受ける参加者



緑豊かな森の再生を願い植樹する子どもたち

参加者は、最初に植樹方法について指導を受けました。緑豊かな森が再生することを願いながら、樹種が混じるように一本ずつ丁寧に苗木を植え、最後にわらで覆いました。

緑豊かな森の再生を願い松尾鉾山跡に植樹